

オープンデータ化への応用に向けた 地方都市の大学生における住みやすさの指標に関する研究

小柏伸夫 * 青木明 † 高橋茜 ‡ 松井綾紀 § 糸将之 ¶

概要

近年の情報環境の発展に伴い、国や自治体等が保有する公共データをオープンデータとして公開する取り組みが盛んに行われつつある。日本でも全国的にオープンデータの事例は増加しつつあるが、オープンデータの効果を高めるには解決すべき様々な課題が残されている。例えば、データの二次利用を促進して住民生活をより良くするためには、地域の特徴に応じた情報が必要という点などである。前橋市もオープンデータの取り組みを開始している。群馬県は全国でも有数の自動車の利用率が高い地域である。本研究は、前橋市と共同で実施しているものであり前述の群馬県地域の特徴に着目し、前橋市における住環境、交通環境、情報通信環境の3つの側面から、特に大学生を中心にオープンデータ化が望まれる情報について調査を進めている。本発表では、その概要について述べる。

1 はじめに

近年、オープンデータと呼ばれる情報公開の取り組みが盛んになりつつある。自治体等では、地域の活性化のために住民や地域の企業が地域での生活の活性化や向上のためにオープンデータを役立てることが望まれている。

前橋市においても、オープンデータとしての情報公開を開始しており [1]、またオープンデータの応用に関する議論を進めている [2]。本研究は、前橋市と共愛学園前橋国際大学で連携して進めている。市を活性化し市民の生活をより豊かにするためにはどのような情報をオープンデータとして公開、提供していくべきか検討を進めており、本研究の成功の暁には類似性を持つ地方都市においても本研究の成果が寄与できると期待できる。

2 研究の背景

オープンデータは様々な定義が行われているが、凡「誰でも自由に利用できるように公開されたデー

タで、多くの場合機械的な判読が可能な形式のデータ」という類いの意味で用いられている。情報通信環境の発展に伴って、機械的な判読が可能なデータを有効利用できる可能性が高まってきており、アイデアに依ってはデータを応用して社会的に新たな価値を想像できる可能性も高い。

前橋市においても、前橋市 オープンデータライブラリー [2] として情報公開を行い、また、前橋アイデアソン [1] を開催しオープンデータの応用について議論をしてきた。

全国的にはその他にも福井県鯖江市のデータシティ 鯖江の事例 [3] や以下に示した一覧のように、近年では行政によるオープンデータ公開や、そのオープンデータの工夫が進みつつある。

- 室蘭市: 防災、地図、ゴミ袋情報など
- 横手市: AED 設置状況、人口統計、予算情報など
- 会津若松市: 防災、人口統計、公共施設など
- 鯖江市: 防災、公共施設、バスなど
- 岐阜県大垣市: 防災、AED 設置状況、駐車場、駐輪場など
- 大阪市: 防災、公共施設、観光など
- 千葉市: 防災、人口統計、ボーリングデータなど

* 共愛学園前橋国際大学 ogashiwa@c.kyoai.ac.jp

† 共愛学園前橋国際大学 aoki11@c.kyoai.ac.jp

‡ 共愛学園前橋国際大学 takahashi-a11@c.kyoai.ac.jp

§ 共愛学園前橋国際大学 matsui-s11@c.kyoai.ac.jp

¶ 前橋市 ito@city.maebashi.gunma.jp

このようにさまざまな取り組みが進みつつあるが、オープンデータとして情報を公開してもその効果的な利用結果を得るには様々な問題点を解決する必要がある。それらの既存の問題点を以下に示す。

- データフォーマットの問題
- 分析前データか分析後データか
- 視認性向上
- データ公開や更新の継続性
- データ公開及び入手のコスト
- 実社会への応用や活用の可能性
- 住民が望むデータか否か
- 公開に伴う副次的な問題の発生
- 二次活用のための工夫

3 本研究の取り組み

本研究の最終的な目的は、住民の生活をより良くするために望まれる情報をオープンデータとして公開することで都市の活性化を推進していくことである。特に今回は大学生を中心とした活性化を目指して検討を進めている。

大学生を中心として街の活性化を計ることを目的とした調査は全国的にも多数行われているが、本研究における特徴的な点としては、群馬県は全国的にも自動車保有率がトップクラスであるということに着目した点である。その点から、住環境、移動手段、連絡手段というお互い連携していると考えられる3つの生活の側面について前橋市の若年層の生活様式の評価軸の特徴について詳しく調査を進めていく。

具体的には今回は、大学生を中心とし(1)住環境、(2)交通環境、(3)情報通信環境、の3つの側面から、前橋市の若年層における生活の質の評価軸を明確化することで、オープンデータ化に向けて市民に役立つ公開情報の形を検討していく。

3.1 進め方

本研究では以下の手順で研究を進めつつある。

- 第一段階：大学生を中心としつつ、高校生、大学生、社会人にたいしてアンケート調査を実施。このアンケート調査によって大学生を中心とした、前橋市近辺の住民の住居、交通、情報

通信の三側面に関する意識調査結果を得る。

- 第二段階：上記の第一段階で明確化した情報について、世代間の差異、性別間の差異、現状と理想の差異などを分析する。
- 第三段階：上記の第二段階で分析した結果等を踏まえて行政からのオープンデータについて、どのようなデータが住民に役立つか、どのようなデータ形式が望ましいか、更新頻度、などの検討を進める。

現在は第一段階であり、2014年10月に実施される共愛学園前橋国際大学の学園祭やその他イベント等で大学生を中心にアンケート調査を実施する。

3.2 3側面からの調査

前述のとおり、本研究では(1)住環境(2)交通環境(3)情報通信環境の3つの側面から調査を進めていく。この3つの側面は、例えば一人暮らしをする大学生の賃貸物件の選択基準は、交通環境が良く駐車場付きの物件の評価が高くなる可能性がある、または、モバイル型の情報通信環境の利用度の高い大学生は自動車よりも公共交通機関を選ぶ可能性がある、等のように相互に関係性があると考えられる。

参考文献

- [1] 前橋アイデアソン International Open Data Day 2014. <https://www.facebook.com/events/718782188165805/?source=1>.
- [2] 前橋市オープンデータライブラリー. <http://www.city.maebashi.gunma.jp/sisei/499/509/p012146.html>.
- [3] 福井県鯖江市データシティ鯖江(XML,RDFによるオープンデータ化の推進). <https://www.city.sabae.fukui.jp/pageview.html?id=11552>.